

# 令和7年度 学校関係者評価

旭市立矢指小学校

## 1 学校教育目標

「豊かな心と健康で自ら学ぶ意欲をもった児童の育成」

学校関係者評価委員  
(学校運営協議会委員)

## 2 本年度の重点化された具体的な目標

- ① 豊かな人間性と思いやりの心を育む
- ② 一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育を進める
- ③ 未来を拓く確かな学力と学び続ける姿勢を育む
- ④ 健やかな体と様々な危険に適切に対処できる知識や行動力を育む
- ⑤ ふるさと旭を愛し、夢を育む教育活動を実現する
- ⑥ 地域とともに歩む学校づくりを進める
- ⑦ 信頼される教職員を目指す

- 学識経験者
- 地域コーディネーター
- 矢指地区区長会長
- 矢指地区社会福祉協議会長
- 主任児童委員
- PTA代表

## 3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

学校による自己評価の評価基準: A(満足できる:肯定的評価90%以上)、B(ほぼ満足できる:肯定的評価70~89%)  
C(やや努力が必要である:肯定的評価50~69%)、D(努力が必要である:49%以下)

学校関係者評価の評価基準: A(適切な評価である)、B(ほぼ適切な評価である)、C(やや不適切な評価である)、D(不適切な評価である)

分野・領域	評価項目	評価の指標 (%)	自己評価	考察と改善に向けた取組	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
学校運営教育課程	保: 子どもは、楽しく学校に行っている。	98.8	A	全校児童が「楽しく学校に通う」ことを目指している。そのため、否定的な評価の児童については、家庭、スクールカウンセラー、関係機関と連携して支えていきたい。行事については、今年度新たに地域のスイミングスクールと連携した水泳指導を実施することができた。多くの行事で異学年交流の場を設定したことも達成感・連帯感を味わい、思いやりの心を育む時間となった。高学年は低学年をリードし、低学年は高学年を手本として安心して行事に臨むことができた。また、ふるさとの良さを体験する行事として、サーフィン教室、地産地消の食育授業、花卉栽培農家によるフラワーアレンジメント教室、旭農業高校との連携授業、地域の農業・水産加工業の見学等を実施できた。校外学習の実施回数も多く、児童が大変楽しみにしているため、継続していきたい。	A	A
	児: 学校はたのしい。	94.7	A			
	職: 子どもは、楽しく学校に行っている。	100	A			
	保: 学校は、安心して楽しく充実している。	98.8	A			
	児: 学校の行事は楽しい。	92	A			
学校関係者による意見等	職: 学校の行事は楽しく充実している。	100	A			
	・ 評価項目のすべてにおいてA評価、取組においても児童がいかに学校へ来たがるかを考えた上で、多岐にわたる行事の考案等々、申し分のない配慮がなされていると思われる。 ・ 新型コロナウイルス対応で行事の精選が進む中、子どもたちのために新たな行事を実施することに敬意を表します。 ・ 「花卉」・見慣れぬ表現で勉強になりました。花卉の省略形が「花」で、花卉の言い換えとして「草花」があることも知りました。 ・ 「楽しく学校に通える」目標はすばらしいと思います。実績を出しているようですので、継続を希望します。 ・ 各分野別項目の評価については一部「C」がありますがそれに対する考察により、改善に向けた考え方や行動は適切と思いますので、今の実施内容の継続で良いと思います。					
学習指導	保: 子どもは授業が楽しく、わかりやすいと言っている。	93.9	A	授業については、毎時間のテーマ(学習問題)を明確にし、既習事項を生かして自分で取り組む時間の確保、友達との共有、そして、1時間で学んだことをまとめるという展開を心がけている。教諭補助員が1名増員されたことにより児童の事態に応じた個別の支援も昨年度より充実した。また、授業におけるタブレット端末の活用率も昨年度より向上し、職員一人一人がICT活用の研修に努めている。 家庭学習については、保護者の評価が昨年度より約10%上がった。発達段階に応じた自主学習の取組や課題を設定したタブレット端末の持ち帰り等に効果があったようだ。しかし、保護者と職員の評価に未だ差が生じているため、課題の量や自主学習についての情報発信について検討する必要がある。 読書の評価については、ここ数年の課題にはなっているが、職員の評価のとおり、学校では多くの児童が読書に親しんでいる。校内で実施している読書賞受賞率も、昨年度の70%から89%(2月現在)に向上している。課題は家庭での読書時間である。ゲームやSNS視聴時間をどのように読書時間に変えていくか、図書館司書と連携して家庭を啓発する読書イベントを企画していきたい。 今年度学力向上の一環として新たに取組んだ「視写」については、5分間で書き写すことのできる文字数が一人当たり平均で50文字増えた。視写により言葉のまとまりをとらえる力が育ち、これによって、読むスピードも驚くほど速くなると言われているため、読解力につながってほしい。これらの取組を学校便りで数回お知らせしたことや月1回の「視写テスト」により、児童も自らの成長を感じることができ、高い評価につながったと思われる。	A	A
	児: 授業が楽しい。	92	A			
	職: 子どもは授業がわかりやすく、楽しく学んでいる。	100	A			
	保: 子どもは家庭学習の習慣がついている。	70.7	B			
	児: 家でも学習をきちんとしている。	82.3	B			
	職: 子どもは家庭学習の習慣がついている。	93.3	A			
	保: 子どもは読書の習慣が身につけている。	50	C			
	児: 読書の習慣が身につけている。	66.4	C			
	職: 子どもは読書の習慣が身につけている。	100	A			
	保: 学校は学力向上のために熱心な取組をしている。	97.5	A			
	児: 学校は学力向上のために熱心な取組をしている。	97.3	A			
	職: 学校は学力向上のために熱心な取組をしている。	100	A			
	学校関係者による意見等	保: 学校はICT機器を活用している。	95.1			
児: 学校はICT機器を活用している。		89.3	B			
学校関係者による意見等	職: 学校はICT機器を活用している。	100	A			
	・ 視写を通じて集中力が身に付くといわれます。子どもの集中力の持続時間として5分というのは適当な長さだと思います。また、記述にもあるように言葉のまとまりをとらえる力が育ちます。次年度以降の継続に期待しています。 ・ 読書については高すぎない目標として、やる気のある子どもには自己評価でAの上、「S」ランクも有りではないだろうか。 ・ 家庭学習と読書習慣に対する評価が保護者と職員で分かれています。保護者の評価を推察するに、原因として考えられるのは、その時間がゲームやSNS視聴にとられているということか。読書賞受賞率に重きを置いている節があるが、児童側にとると本を何冊読んだかが重要で、読みたい本・興味のある本であるかどうかは、二の次になっていることは考えられないだろうか。 ・ 図書館司書として児童の読みたがる本の傾向についての調査をされているのだろうか。					
生徒指導特別支援教育	保: 子どもは正しい言葉遣いやあいさつができています。	78.1	B	今年度、職員が力を入れて取り組んできた「言葉遣い・あいさつ」については、昨年度と比較すると、職員が28%向上した。児童についてはやや下がったが、高学年児童が組織する代表委員会や校長講話、学級活動や道徳の中で、礼儀について多く取り上げ、話し合ってきたことが影響していると思う。他者を思いやる言動と礼儀については、特別支援教育においても大きく関わる内容なので、心の安定やコミュニケーションについて、指導法を工夫していきたい。 教師による「児童理解・対応」の質問項目は、保護者の肯定的評価はやや向上したが、児童については6%下がった。年に2回、児童と教師が1対1で面談をする時間を確保してきたが、日々の学校生活の中で児童の変化に気づき、心情に寄り添えるよう児童と向き合える時間の確保が課題である。また、担任だけでなく、管理職や養護教諭、教諭補助員がそれぞれの気付きを共有し、スクールカウンセラーや特別支援アドバイザー、関係機関の指導を受けながら、児童が不安に思っていることを解決していきたい。 児童の「早寝・早起き・朝ごはん」と「家族とのコミュニケーション」の結果については、双方ともに児童の肯定的評価が10%下がった。学級・学校便りや保健便り、保護者面談や日々の連絡とおして、学校と家庭が情報共有を密に行い、基本的な生活習慣や児童理解について協力していきたい。	A	A
	児: 正しい言葉づかいやあいさつができる。	83.2	B			
	職: 子どもは正しい言葉遣いやあいさつができています。	66.7	C			
	保: 子どもは早寝・早起き、朝ごはんの習慣が身につけている。	75.6	B			
	児: 早寝・早起き、朝ごはんの習慣が身につけている。	82.3	B			
	職: 子どもは早寝・早起き、朝ごはんの習慣が身につけている。	80	B			
	保: 学校は子どもをよく理解し、適切に対応している。	93.9	A			
	児: 学校(先生)はみんなのことをよくわかっている。	91.1	A			
	職: 子どもをよく理解し、適切に対応している。	100	A			
	保: 家庭では子どもと十分にコミュニケーションが図れている。	95.1	A			
学校関係者による意見等	児: 家の人と普段十分に話ができている。	87.6	B			
	職: 保護者と児童は十分なコミュニケーションがとれている。	86.7	B			
学校関係者による意見等	・ 「早寝・早起き・朝ごはん」は、平成18年に始まった子ども生活習慣づくりキャッチフレーズで既に20年が経過しました。昨今では単に早く寝起きするのではなく、睡眠の質、朝ごはんの内容にまで踏み込んだ指導も必要かも知れません。だから「家族とのコミュニケーション」が大切になっていくと思います。 ・ 児童と教師が1対1で面談をする時間はとれたものの2回では、児童の変化に気づき、心情に寄り添うことは難しい。児童が不安に思っていることをどのように解決していくのか具体案を立てるべきだと思う。教師側の日々の不安を情報化し、個で対処することなくチームで対応することを前面に押し出して「見える化」していただきたい。 ・ 家庭内教育も重要ですので保護者の意識付けをどのように上げるかが課題ですね。					
	保: 学校ははじめのない学級作りに取り組んでいる。	93.9	A	本項目に関する評価については、昨年とほぼ変わらなかった。児童による「はじめのない学級」に関する評価については肯定的評価100%を目指したい。本年度も、毎月実施するアンケートや保健室前に設置している相談ボックス、教師との1対1面談、スクールカウンセラーによる観察やカウンセリング等に加え、休み時間の見守りを行ってきた。生活アンケートについてはタブレットを活用して集計にかかる時間を短縮し、悩みのある児童については相談担当職員が早い段階で聞き取りを実施するよう努めた。しかし、相手の立場に立って考え行動することができず、トラブルに発展するケースも数件見られたので、円滑な対人関係の築き方やSOSの出し方教育、情報モラル教育にも取り組んでいきたい。	A	A
児: 先生ははじめのない学級作りに取り組んでいる。	94.6	A				
職: いじめのない学級づくりに取り組んでいる。	100	A				
保: 学校は保護者や子どもの相談に対し、適切に対応している。	95.1	A				
児: 先生は相談のつてくれる。	96.4	A				
学校関係者による意見等	職: 保護者や子どもの相談に対し、適切に対応している。	100	A			
	・ 「はじめのない学級づくり」の項目については職員の100%に対し、保護者・児童の94%前後の数値については逆説的に6%ほど満足していない保護者・児童が存在していると思わなければならない。聞き取りを実施するにあたり「相手の立場に立って考え、行動することができず、トラブルに発展するケースが数件見られた」と、判定していることから、この6%の方々のケアは重要視していただきたい。 ・ 本人の感じ方ですので、SOSの出し方と受け止める側の気遣いを継続をお願いします。 ・ トラブルへの対応は、「保護者には初期段階で連絡をしている」との回答を得て安堵したところである。 ・ 授業参観に参加し、矢指小の校風は「ゆったり感があり、余裕を感じさせられる」と強く感じた。それだけにわずかな不安要素にも慎重に取り組んでいただきたい。					
保健・体育安全管理	保: 学校は体力向上に向けて積極的に取り組んでいる。	95.1	A	今年度も高学年の陸上練習、全校で取り組んだ水泳、持久走、縄跳び運動により、児童は運動に親しんだ。休み時間も学年をまたいで、一緒に外遊びをする様子が見られる。しかし、体力テストの結果を見ると50m走、握力、立ち幅跳び、腹筋を使う運動に課題が見られた。これらのことから、来年度は教科体育の中で、瞬発力や筋力を高める運動を取り入れていきたい。また、学校保健委員会にて保護者の参加者から本校の実態をふまえたご意見をいただき、大変参考になった。縦割り活動のよさと運動量の確保の両方を実現できる学校行事を計画したり、校内感染状況の情報提供に努めたり、体力向上と健康管理に努めていきたい。 「登下校や校内生活の安全」については、昨年同様、高い評価をいただいた。登校時には地域の方や駐在さんにお世話になり、安全な道路横断をご指導いただいている。今年度は正門前の駐車について文書で何度も注意喚起したり、職員が正門前で直接、危険性を説明したり、保護者に協力を求めた。また、教育活動内で起こったけがについては、保護者の方に確実に伝わるように心がけてきた。毎月の安全点検や毎朝の敷地点検も事故やけがの防止につながった。	A	A
	児: 先生はみんなの体力がつくように取り組んでいる。	98.2	A			
	職: 体力向上に向けて積極的に取り組んでいる。	100	A			
	保: 学校は健康管理に十分取り組んでいる。	90.2	A			
	児: 先生はみんなが健康でいられるように取り組んでいる。	95.6	A			
	職: 学校は健康管理に十分取り組んでいる。	100	A			
	保: 学校は登下校や校内生活の安全に十分対応している。	96.3	A			
	児: 学校は安全だと思う。	97.4	A			
学校関係者による意見等	職: 登下校や校内生活の安全に十分取り組んでいる。	100	A			
	・ 昔は登下校が徒歩なのが当たり前でそれだけで足腰が鍛えられたと思います。せめて休み時間や放課後などの時間以外で体を動かすことができると体力は付くのですが、なかなか時代の流れが許しません。そのような中で高評価は、とても価値があります。 ・ 「学校の健康管理」に保護者評価が90%であることは、10%の保護者には評価されていないと言ったことである。多岐にわたり学校側が努力しているにもかかわらず、一部の保護者はその実態を知らないのではないだろうか。 ・ 年度当初、保護者に依頼した「朝の登校見守り」の参加実態や進捗状況の確認チェックは、学校側が実施しなければならない。					
保護者・地域との関わり	保: 学校便りや学年便り等で教育活動をわかりやすく伝えている。	97.6	A	月1回の学校便り、学年便り、保健便りの発行と行事毎のホームページの更新、連絡アプリでの伝達事項の配信、学校便りの地域回覧を行ってきたことに高い評価をいただいた。今年度は昨年度のように地域の行事がなかったが、多くの教育活動で保護者や地域の方々にご協力をいただいた。地域コーディネーターの学校支援や情報提供についても感謝している。今後は、地域学校協働活動の広報活動が課題になると考える。年度初めのPTA総会での地域コーディネーターの紹介、ボランティアの募集、PTA活動との連携を進めていく必要がある。	A	A
	職: 学校便りや学年便り等で教育活動をわかりやすく伝えている。	100	A			
	保: 学校は家庭や地域と協力して活動している。	95.1	A			
	職: 学校は家庭や地域と協力して活動している。	100	A			
学校関係者による意見等	・ 地域との関わりが大切に必要なのわかりますが、開かれた学校とは単に門戸を広げることではありません。子どもにとって真に必要な人材の選定は慎重に行ってほしいと願います。築き上げた信頼が一瞬で揺らぐのは意外と外部の人間を受け入れた時に起こります。常に気をつけたいものです。					